

No. 323【2018年9月14日配信】

青森県女子師範学校附属小学校 (担当:鈴木)

こんにちは。嘱託員の鈴木です。朝夕、肌寒さを感じるようになりましたね。

堤町一丁目の青森中央郵便局西側に、小さな碑があることにお気づきでしょうか？これは、青森県女子師範学校附属小学校がこの場所にあったことを記念するものです。



青森県女子師範学校附属小学校跡の碑

明治44年(1911)4月、現リンクステーションホール青森の場所に青森県女子師範学校(以下、女師 6月1日配信の「あおり歴史トリビア」No.308で紹介)が開校しました。第1期生として入学したのは30名。彼女たちが最終学年の4年生になると教育実習を行なうため、それまでに実習校となる学校を準備しなくてはなりません。

そこで、女師の東側(現青森中央郵便局)にあった旧浦町尋常小学校(現在の浦町小学校とは別の学校、大正元年度で廃校)校舎を使用して、大正3年(1914)4月1日に女師附属小学校が開校しました。

初年度の募集は尋常科が1~6年男女、高等科が1~3年女子のみで、10学級500名です。しかし、授業料が市内の他校よりやや高いのと、よほど家が近所でない限りわざわざ転校するのもちょっと…ということで、なかなか児童が集まりませんでした。そこで授業料を下げ、各学校に協力を働きかけるなどして開校式および入学式の日にはようやく400名に達しましたが、尋常科5、6年男子の応募だけ少なかったそうです。高等科には女子しか進めないのもあって、男子は転校するメリットが感じられなかったのかもしれませんがね。

なお、女師附属小学校の入学希望者は年を追うごとに増え、また男子も高等科まで進むことができるようになりました。

また、同年6月1日には同校舎内に附属幼稚園も開園しました。開園が6月になったわけは、教室の準備が間に合わなかったからです。というのも、大正2年度にこの校舎を借用していた青森県師範学校(以下、男師)附属小学校が浪打の新校舎に移る予定だったのですが、新校舎が男師の寄宿舍に仮用されていたため移転できず、そのまま女師附属小と校舎を供用していたからでした。5月末にようやく教室が空くことになり、4歳児と5歳児の2学級、50名を募集したところ、こちらは84名という多数の応募があったそうです。

その後、学校名は昭和16年(1941)に「国民学校令」により女師附属国民学校、さらに同18年には女師と男師が統合されたことにより官立青森師範学校女子部附属国民学校と改称されました。そして、昭和20年7月の青森空襲により校舎はすべて焼失、学校は弘前市に移転し、戦後の学制改革で誕生した弘前大学附属小学校の前身のひとつとなったのです。



官立青森師範学校女子部周辺
(昭和18年発行「青森市全図」、『新青森市史』資料編7付図)